

コラム

招聘研究員レポート

名前	所属	招聘期間
陳 賽	華東師範大学 中国非物質文化遺産保護研究中心	2023年10月11日～2023年10月31日
巖 曼華	北京師範大学文學院 民間文学研究所	2023年11月 2日～2023年11月21日
李 瑜恒	中山大學 中国非物質文化遺産研究中心	2024年 1月 9日～2024年 1月28日
キリ・ヴェメテ	ブリティッシュ・コロンビア大学 アジア学科大学院	2024年 1月10日～2024年 1月30日
ダニエル・アレイシヨ	サンパウロ大学 日本文化研究所	2024年 2月 1日～2024年 2月21日
曾 昭駿	浙江工商大学 東亜研究院	2024年 2月 1日～2024年 2月21日
キム・ヨンソン	漢陽大学校 東アジア文化研究所	2024年 2月 1日～2024年 2月21日

日本民謡考察記：詩と音楽と舞の融合



陳賽
(華東師範大学)

今回川越祭りの「お囃子」(2023年10月14日)と日本橋宝田恵比寿神社祭りの「盆踊り」(2023年10月20日)にて民謡のフィールド調査を行った。川越祭りの会場に着いて、まず目に入ってきたのは、山車の曳行を始める前の木遣り唄の様子だった。鳶(頭)から歌い始め、兄木遣と弟木遣の職人が交互に歌う。木遣り唄を歌う際、職人たちは集中した表情で、古代の儀式の様な厳かな雰囲気が漂っていた。次に鳶の掛け声と拍子木の合図で山車が街を巡行し始める。山車巡行で印象的なのは、長く空に響き渡る囃子と豪華な舞台パフォーマンス

スだということを現場で感じた。川越祭りではそれぞれの町文化を代表する29台の華やかで美しい山車が有名で、各山車には「囃子台」と呼ばれる舞台がある。川越の囃子は江戸の葛西囃子と神田囃子を源流とし、音楽と舞を主体とする民謡音楽である。笛1人、大太鼓1人、小太鼓2人、鉦1人、舞1人の構成で舞方が囃子台でパフォーマンスを行う。囃子台上の音楽と舞が山車巡行を盛り上げ、特に山車がすれ違う際の囃子と踊りの競い合いは、祭りの雰囲気を最高潮に盛り上げる。川越会館の資料によると、川越囃子は王蔵流、芝金杉流そして堤崎流の三大流派に分けることができ、各山車の流派のメ



写真1 川越祭りで囃子台上でのパフォーマンスに見入る子供たち



写真2 山車が角を曲がる様子



ンパーは固定されている。披露される曲目は山車の曳行が始まった時、曳行途中、神を迎える時、舞の途中、曳行を終える時など巡行状況によって変わる。基本的な囃子の曲目は「屋台」、「鎌倉」、「インパ」などで、同じ曲であってもその曲調、旋律は各流派によって異なっている。五人囃子以外の舞い手は常に狐や獅子など動物のお面をかぶって舞を披露し、山車の前にいる手古舞も加えて迫力ある囃子と舞を構成している。山車上での囃子や舞以外に、祭り当日には各流派の囃子連が町中に囃子台を設置して演舞を披露し、多くの見学客を魅了しており、素晴らしいパフォーマンスに大きな拍手、喝采が送られていた。囃子の曲目に歌詞はないものの、その豊かな曲調の演奏と、華やかな舞い手が作り上げる詩的な空間は、川越祭り全体を濃厚な芸術的雰囲気で見事に包み込むのに十分であった。

一方、宝田恵比寿神社に到着した時は既に夜になっていたが、空に響き渡る盆踊りの音に惹かれて、賑やかな商店街で足をとめることはなかった。音を追って盆踊りの会場に到着すると、力強い太鼓の音に合わせて、音頭取りと共に皆が歌い踊っていた。着物を着ている人、着飾っている人や普段着を着た会社員、ひいては子供たちも大人に混じって盆踊りの列に加わっていた。盆踊りには「行進式」と「円舞式」の二つの形式があり、「行進式」が主体となっている。通りの幅によって、左右3～4列に並び、音頭に合わせてお互い反対方向にゆっくりと踊りながら進み、通りの端まで来ると方向を変えて進む。曲目が変わると、人々は左右の人の手を握って輪になって踊ることもある。踊りは複雑なものではなく、基本的には音楽の拍子に合わせて上下、前後、左右に手を動かして踊りの動作を作り、足は音楽のリズムに合わせて



写真3 宝田恵比寿神社の熱気あふれる商店街



写真4 盆踊りを興味深く眺める外国人

て動かし移動していく。特筆すべきは盆踊りの曲目には東京音頭、日本橋音頭、べったら音頭、炭坑節などがあるが、これらの音頭の歌詞はシンプルで素朴なものもあることだ。例えば日本橋音頭の歌詞は、「東京の真ん中 中央区 古い歴史の人形町／つつじにかこまれ 輪になれば／大人も 子どもも にっこり笑い／みんなで歌おう 日本橋」。また炭坑節の様に詩的で美しい歌詞もある。「月が出た出た 月が出た 三池炭坑の 上に出た／あまり煙突が 高いので さぞやお月さん けむたから／あなたがその気で 云うのなら 思い切ります 別れます」。基本的に7585/8585/8575のリズムと26文字の詩型で、短い言葉を使い情緒を際立たせている。外国人の目から見ると、これらの音頭には庶民の豊かな生活の情感が満ちており、感動的で、盆踊りの会場がだれもが参加できる詩と音楽と踊りの祭典のようである。

民謡は本質的にその時代、その土地に生きる人たちの生活経験と考えや願いを凝縮したものであり、川越祭りの「お囃子」と宝田恵比寿神社祭りの「盆踊り」から「詩」（文学的境地）、「音楽」（歌を歌う）、舞（舞踊パフォーマンス）が一体となった芸能技術が見て取れる。また、日本の民謡は、その起源、演奏過程、目的、歌詞などの観点から、「祭り」を中心とした「場」を通して、庶民の現実的な関心事を神聖な芸術形式によって表現するものであり、日本の特徴を持つ一種の「儀式文芸」とみなすことができる。